

広告

「青森県・函館デスティネーションキャンペーン」9月30日まで開催

# 海風を感じる涼やかな夏の旅。 港町さんぽと海峡クルーズ

JRグループは、関係自治体などと協力して9月30日まで、「青森県・函館デスティネーションキャンペーン」(DC)を開催しています。青森県と北海道南地域は、古より深い交流のあったエリアです。北海道新幹線開業でぐんと近くなった青森県・函館エリアを「ひとつの旅」で巡ってみませんか。



1860年創建の「函館ハリストス正教会」。現存する聖堂は1916年に再建されたもの



漆喰塗りの土蔵造りに、3連アーチ形などの洋風の意匠をあしらった「太刀川家住宅店舗」



港町の歴史を伝える金森赤レンガ倉庫は、ピヤホールも備える人気の観光施設に

右/函館山のすそ野に幾筋も延びる坂道は、函館らしさを感じさせる景観。中でも函館港を望む八幡坂は人気の撮影スポット



2013年に就航した最新の「大函丸」は、函館と大間を90分で結ぶ

約二千万年前の海底火山活動によりできたという「仏ヶ浦」。文人・大町桂月は、その神秘的な造形美を歌に詠んだ

下/1910年に建てられた「旧函館区公会堂」。コロニアル様式の木造建築で、破風や窓枠などに繊細な意匠が施されている



大湊駅に隣接し、下北観光の拠点として便利な「ホテルfolkloro 口大湊」



ヒバチップがぎっしり詰まった「ヒバぶる」は、イベント時限定の大湊駅の新名物だ

このボリュームと鮮度は、「まぐろ一本釣の町」の大間ならではの



西吹付山の展望台より津軽海峡を望む。晴れの場合には、漁船の並ぶ大間漁港と大間埼灯台の立つ弁天島の先に、遠く函館の街が見える

### 異国情緒に彩られた坂と洋館の街歩き

今回の旅は、北海道新幹線新函館北斗駅経由で函館に入り、函館で街歩きを楽しんだ後、フェリーで津軽海峡を越えて下北半島を周遊するコースです。函館は、異国情緒あふれる港町。明治から昭和初期にかけて形成された元町・ベイエリア一帯の重要な建造物群保存地区を中心に、見どころが各地にあります。函館港に面した「金森赤レンガ倉庫」は函館ビヤホールや地元のスイーツショップなど、人気店もそろそろショッピングエリアとして終日にぎわいをみせています。倉庫群から函館山へと真っ直

ぐに延びる「八幡坂」は、約270メートルの石畳の道。坂の上から函館港を見下ろす眺めは、函館を象徴する風景として知られています。日本の道100選の一つである「大三坂」も石畳が美しく、日本初の新正教会の教会「函館ハリストス正教会」や「カトリック元町教会」などの寺院が街並みに見事に調和しています。かつて官庁街だった「基坂」は、高台に建つ「旧函館区公会堂」の威容がひととき目を引きまします。公会堂は木造2階建ての国指定重要文化財で、「2階の260畳分もある大広間は、柱がない『釣り天井』という造りで、函館の迎賓館としての役割を果たしていました」とスタックの福田孝さん。皇太子時代の

### 海峡越えと奇岩巡り 二つの船旅を楽しむ

函館の街を後に、函館埠頭から、本州と北海道を最短で結ぶ津軽海峡フェリー「大函丸」に乗船します。遠ざかる函館山に別れを告げ、目指すは本州の最北端、下北半島の大間。海峡を渡る風を感じながら、2013年就航の最新の船で、90分の快適な船旅を楽しみましょう。「大間のマグロ」で知られる

### 大正天皇が行啓の際に宿泊された寝室や浴室もそのまま保存されており、当時の雰囲気を感じることが出来ます。

異国を思わせる洋館だけでなく、和洋折衷の美しさを持つ歴史的な住宅が残されているのも函館の街並みの魅力です。国指定重要文化財の「太刀川家住宅」店舗は、1階を改造し瀟洒なカフェ・レストランとして旅人を迎えています。街歩きには、地元のおいしい食も欠かせません。函館市の魚イカを使ったイカソーメンや海鮮丼、北海道三大ラーメンの一つである函館塩ラーメンなど、名物グルメも押さえておきたいところです。

青森県大間町は、「まぐろ一本釣の町」を標榜しています。かつて一本釣りのマグロは、ほとんどが東京などに直送され、地元では幻のようになっていました。現在は、瞬間冷凍技術の発達などによって、町内の料理店やすし屋などでも上質なクロマグロが提供されるようになりました。せっかく大間にきたのですから、マグロがふんだんに載ったマグロ丼で腹ごしらえといきましょう。

大間からは、車で下北半島を南下します。下北半島は日本三大霊場の一つ「恐山」が有名ですが、近年は新たなパワースポットとして「仏ヶ浦」を訪れる人が増えています。この秘境は国の名勝・天然記念物で、下北の西海岸約2キロメートルにわたって、高さ最高90メートルにも及ぶ断崖が続いています。奇岩群の迫力を体感するなら佐井港からの観光船がおすすめで、30分ほどで断崖絶壁を見上げる浜へと上陸できます。夏は冬の厳しさと対照的に穏やかで、極楽浄土を思わせます。

北海道から青森へ、北国の港町をつないだひとつの旅は、海を渡った文化と、海を渡るロマンを一度に満喫できる旅でした。



大正天皇が行啓の際に宿泊された寝室や浴室もそのまま保存されており、当時の雰囲気を感じることが出来ます。異国を思わせる洋館だけでなく、和洋折衷の美しさを持つ歴史的な住宅が残されているのも函館の街並みの魅力です。国指定重要文化財の「太刀川家住宅」店舗は、1階を改造し瀟洒なカフェ・レストランとして旅人を迎えています。街歩きには、地元のおいしい食も欠かせません。函館市の魚イカを使ったイカソーメンや海鮮丼、北海道三大ラーメンの一つである函館塩ラーメンなど、名物グルメも押さえておきたいところです。

青森県大間町は、「まぐろ一本釣の町」を標榜しています。かつて一本釣りのマグロは、ほとんどが東京などに直送され、地元では幻のようになっていました。現在は、瞬間冷凍技術の発達などによって、町内の料理店やすし屋などでも上質なクロマグロが提供されるようになりました。せっかく大間にきたのですから、マグロがふんだんに載ったマグロ丼で腹ごしらえといきましょう。

### 終着駅で出合った 心温まるほっこり土産

下北半島での宿泊は大湊線の終着駅・大湊駅に隣接する「ホテルfolkloro 口大湊」へ。恐山山地の最高峰・釜ヶ崎山や、海の幸が豊富な陸奥湾を望める部屋が用意されています。旅のお土産には、大湊の青森ヒバチップがひそかな人気です。青森特産のヒバ材のチップを自分でネットに詰め、無料で持ち帰ることができます。風間浦村の製材所が運営する「手づくり木工館 わいどの木」が、ヒバの良さを知ってもらおうと駅への提供を始めました。「イベント時には駅社員総出でヒバチップを詰め込み、りんごの形に仕上げで配布します」と駅長の工藤さん。ヒバの香りはリラックス効果・消臭効果もあり、隠れた名物になるかもしれません。

### 津軽海峡でつながる物語

JR東日本では、北海道新幹線開業でますます近くなった青森県・函館エリアの「自然」「歴史・文化」「食」などを堪能するさまざまな旅のプランをご用意しています。爽やかな季節に潮風を感じながら、1つの旅で2つのエリアを満喫する旅に出掛けてみませんか。詳しくは、JR東日本の主な駅の「びゅうプラザ」にあるパンフレットまたはホームページ(<http://www.eki-net.com/travel/>)をご覧ください。

- ### お問い合わせ先
- 金森赤レンガ倉庫  
北海道函館市末広町14-12  
TEL:0138-27-5530(インフォメーション)  
TEL:0138-27-1010(函館ビヤホール)
  - 函館ハリストス正教会  
北海道函館市元町3-13 TEL:0138-23-7387
  - 旧函館区公会堂  
北海道函館市元町11-13 TEL:0138-22-1001
  - 太刀川家住宅店舗  
北海道函館市弁天町15-15 TEL:0138-22-0340
  - 津軽海峡フェリー  
● 大間支店  
青森県下北郡大間町大間根内10  
TEL:0175-37-3111
  - 大間のマグロ  
TEL:0175-37-2111 (大間町役場産業振興課)
  - 仏ヶ浦 青森県下北郡佐井村長後縫道石国有林内  
TEL:0175-38-4515 (佐井村観光協会)
  - ホテルfolkloro 口大湊  
青森県むつ市大湊新町7-20 TEL:0175-24-0051
  - 手づくり木工館 わいどの木  
青森県下北郡風間浦村易間大川目6-7 TEL:0175-35-2147